

- 播磨国守護赤松円心と赤松家 . . . . . P1~2
- イワタ深掘り 文化財だより Ver. ④ . . . . . P3
- 旧見付学校で防火訓練をおこないました . . . . . P4
- コラム『古代人の指紋』鈴木紗英 . . . . . P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和8年3月2日発行

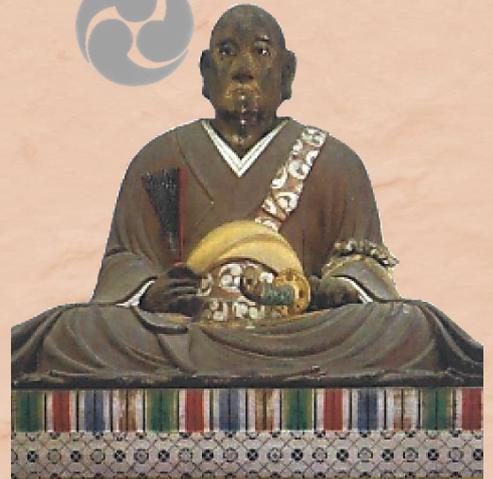


旧赤松家記念館  
米蔵展示



赤松則良像

# 播磨国守護 赤松円心と赤松家



赤松円心坐像

「兵庫県赤穂郡上郡町 HP」より

日時:開催中~3月29日(日)まで

午前9時~午後4時30分 入館無料

休館日:3/2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、24(火)

場所:旧赤松家記念館 米蔵(見付 3884-10)



施設についてはコチラ

現在、旧赤松家記念館の米蔵で、赤松家をテーマにした展示の第5弾を開催しています。今回の展示では、当館所蔵の資料や播磨国（現在の兵庫県）赤松家の研究資料から、赤松則良と、則良の関心が高かった赤松家の先祖である赤松円心について紹介しています。

## 赤松則良とは

赤松則良は、天保12年(1841)に江戸で生まれ、祖父の跡を継いで赤松姓を名乗りました。長崎海軍伝習所で海軍仕官を志した後、遣米使節団への随員かんりんまる（咸臨丸乗組員）し、オランダ留学では造船技術を習得しました。明治維新以降、海軍中将・男爵となり、この間には義叔父とともに磐田原台地で茶園の開拓をおこなっています。旧赤松家記念館は、明治20~30年代に建築した赤松家の邸宅の跡に位置しています。

# 赤松家『系譜』と赤松<sup>えんしん</sup>円心



系譜

企画展のタイトルでもある赤松円心（則村）は、播磨国の守護大名としての赤松氏<sup>こうりゅう</sup>興隆の基礎を築いた人物で、鎌倉時代から南北朝時代にかけて活躍した武将です。

若い頃の動向は不明ですが、山陽道に近い播磨国・赤松の地の利を活かして、中国山地からの木材や鉄などの流通を掌握し、力を蓄えていったとみられます。その後、足利尊氏と共に京へ攻め入るなど室町幕府成立の立役者となり、この功績が認められ播磨国守護職に任命されました。

今回展示している則良が購入した『系譜』は、守護大名・赤松氏の末裔である石野家に伝来していた系図と考えられます。

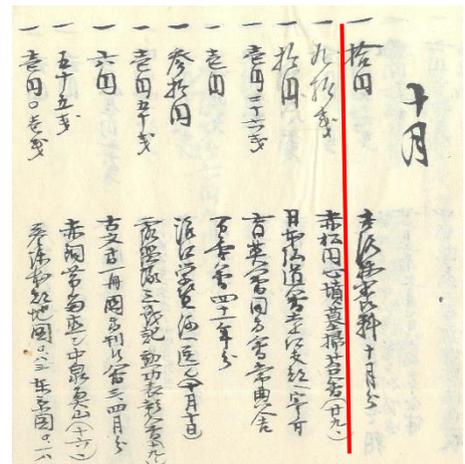
則良は、「石野家」を同族として扱い、この『系譜』を子孫から購入したのかもしれませんが。

## 先祖「赤松家」への関心

則良が自身の先祖について、関心が高かったことを示す資料が残されています。

長崎海軍伝習所から江戸への帰路や、海軍仕官後も、現在の兵庫県にある「赤松家の先祖墓」を訪ねて参詣していることが『赤松則良半生談』や『日記』からうかがうことができます。

また、毎年記録していた『支出帳』には、「明治40年（1907）2月」の項に、先に紹介した赤松家の家系図である『系譜』を購入した記録を見ることができます。「明治41年（1908）10月」の項には、円心の墓を管理する団体へ90銭の支払い記録があります。



支出帳

明治41年（1908）10月

## 旧赤松家のみどころ

旧赤松家記念館では、米蔵のほかにも展示・敷地内建物の公開をおこなっています。ぜひ、米蔵の展示とあわせてお楽しみください。



旧赤松家記念館

旧赤松家関連の市指定文化財などを展示しています。



【県指定】旧赤松家の門・堀

レンガ積みの巧みさから県指定文化財となっています。



【市指定】図書蔵

近代建築の要素と伝統工法が組み合わされた建物です。

# イワタ 深掘り

— イセキでワクワク♪ タイムトラベル —

文化財だより Ver.④

はまべ 浜部遺跡・浜部古墳群

磐田市合併から 20 年の間に発掘・整理をおこなった遺跡を紹介するシリーズです。今回は南部地区から福田地区にかけて広がる浜部遺跡・浜部古墳群を取り上げます。

## 浜部遺跡・浜部古墳群とは

浜部遺跡は、昭和 30 年代に古墳時代中期の須恵器すえきが出土したことで発見された遺跡です。市道の工事に伴い令和 3・4 年度に調査をおこなったところ、新たに古墳が見つかり、浜部古墳群として登録されました。また、調査では中世の集落跡も見つかっています。

## 磐田市最南端の古墳

調査では 3 基の古墳が発見されました。墳丘や石室などの埋葬施設は残っておらず、周溝しゅうこう（古墳の周りに掘られた溝）のみが見つかりましたが、直径約 8～10m の円墳であったことが分かりました。周溝からは古墳時代後期の須恵器すえきが出土しています。

また、3 号墳の周辺から、古墳時代中期の、上部がラップ状に広がる朝顔形埴輪はにわの破片が出土しました。3 号墳築造以前の埴輪であるため、周辺に埴輪を伴う未発見の古墳がある可能性があります。

磐田市内には 900 基以上の古墳がありますが、そのほとんどが磐田原台地上に造られています。浜部古墳群のように、砂地上に造られているのは市内では 2 例のみです。

## 中世の集落を発見



中世の山茶碗



井戸目が出土した様子

令和 4 年度の調査区から中世の溝や土坑、井戸などが検出され、中世の集落があったことが分かりました。

調査区北側で見つかった溝は東西に延び、幅約 1.2m、深さ約 40cm で、集落の土地を区画するための溝であったと考えられます。溝の中からは山茶碗などが多数出土しました。

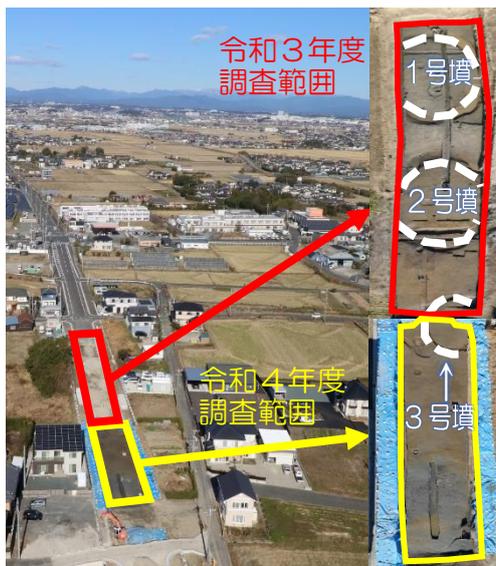
土坑 2 基からは馬の頭部の骨が見つかりました。全て同一個体のものと思われる。

また、直径約 1～2m の井戸が 3 基見つかりました。材質は加工性・耐朽性が高いヒノキで、13 世紀末～14 世紀末のものでした。井戸目と呼ばれる井戸の底の部材も出土しており、ヒノキの皮で作られていたことが分かりました。

3/4 いわた文化財だより 第 252 号



浜部遺跡・浜部古墳群置図



調査地点空中写真（南から）

## 旧見付学校で防火訓練をおこないました

文化財防火デーに先立ち、1月18日に国の史跡である旧見付学校で防火訓練をおこないました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に現存する最古の木造建造物である法隆寺の金堂の一部が炎上し、壁画が焼損したことがきっかけで制定されました。制定以来、全国で文化財防火運動がおこなわれています。

旧見付学校で開催した訓練は、消防署も参加し、火災発生の通報、見学者の避難誘導、放水銃、水幕ホース、ポンプ車での放水までの一連の行動を確認しました。

また、館内に設置している避難者用ヘルメットの位置、消火器の使用方法の確認などもおこないました。

放水のしぶきを前に、スタッフ一同改めて「文化財を守り、繋げていく」という決意を新たにしました。



訓練の様子

### 職員リレー コラム

### 古代人の指紋

鈴木 紗英

向陽中学校内で発掘中の中原B古墳群について、向陽中の生徒たちに授業をおこない、発掘現場や実際の出土品を見てもらいました。

今回の調査では、須恵器すえきと呼ばれる古墳時代の終わり頃の土器が多く出土しています。硬さと青灰色が特徴の土器で、壺と、食べ物を盛る器とフタを確認することができました。

フタの裏側をよく見ると、中央に複数の指紋が見られます。表側にある凹凸を付けるために指を押し付けた際についたもののでしょうか。他にも、土器の表面ひょうめんを整えるために道具を使い撫でた跡も残っています。出土品に残る当時の人々の製作活動の痕跡に、生徒たちも興味を持ってくれ、驚きと感動の声を上げながら熱心に出土品を見つめていました。



授業の様子

古墳のそばで学び、発掘が進む様子を体感したことが、地元の歴史に興味を持つきっかけになってくれたらと願うばかりです。

**編** 桜が待ち遠しい季節になりましたが、花より団子派の私は「桜餅」が楽しみです。長  
**集** 命寺（関東風・イラスト左）と道明寺（関  
**後** 西風同右）の食べ比べがしてみたいです。  
**記**

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索